

1. 件名：「日本原燃(株)再処理施設の設工認申請に係る面談」
2. 日時：令和2年9月8日(火) 16時00分～18時15分
3. 場所：原子力規制庁 10階会議室(一部TV会議により実施)

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部

核燃料施設審査部門

(原子力規制部新基準適合性審査チーム)

長谷川安全規制管理官、古作企画調査官、猪俣上席安全審査官、中川上席安全審査官、上出安全審査官、河本安全審査官、大岡安全審査専門職

日本原燃(株)

大久保 理事 再処理事業部副事業部長 他13名

東京電力(株) サイクル技術グループマネージャー

中部電力(株) サイクル戦略グループ課長

関西電力(株) 原燃計画グループマネージャー 他1名

四国電力(株) サイクル技術グループ担当

5. 要旨

- (1) 日本原燃株式会社(以下「日本原燃」という。)から、新規規制基準に係る再処理施設の今後の設計及び工事の計画の認可申請(以下「設工認申請」という。)に関し、令和2年9月4日の面談(※)の議論を踏まえて、当日提出資料に基づき、申請書記載事項の整理状況等について説明があった。
- (2) 原子力規制庁から、主に以下の点を伝えた。
 - ・ポンプを例として提示された類型化の整理について、代表設備機器等の選定の考え方を説明すること。また、耐震クラスなどの凡例の記載の趣旨を明確にすること。
 - ・系統ごとの類型化を検討したとのことだが、この視点は代表設備機器等の選定で考慮するものであり、基準適合性を示す上での分割申請の考え方を整理した上で、改めて説明すること。
 - ・全体の申請対象設備リストについて、まだ整理途中のものとのことであり、機種区分の整理も含めて精査すること。

(3) 日本原燃から、本日の面談を踏まえて対応する旨の発言があった。

6. その他

提出資料

「資料1 申請対象設備リストについて」

「資料2 系統ごとの類型化について」

「資料3 ポンプ（安重、SA 設備）の類型化について」

※ 令和2年9月4日の面談

「日本原燃(株)再処理施設の設工認申請に係る面談」